東日本大震災　MSW 災害支援ニュース

JASWHS　公益社団法人　日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

平成２８年７月８日　第６巻（第３号）

発行：東京都新宿区住吉町 8–2０ 四谷ヂンゴビル2F
災害支援チーム　TEL (03)3351-5038
FAX (03)5366-1058
Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

１．　現地担当者着任の挨拶
２．　熊本地震被災地益城町の災害支援活動に参加して
３．　活動報告
４．　災害支援チームからのお知らせ
５．　災害支援ニュース発行のお知らせ
６．　あとがき

熊本地震で被災されたみなさま
心よりお見舞い申し上げます
復興への道のりがより短くなるよう
祈念いたします

1．現地担当者　着任の挨拶

石巻事務所・現地担当者として着任した金崎慶大氏と菊田駿氏からの挨拶です。
今年度４月から２年間現地にて、若い力で復興支援活動を支えてくれます。

災害支援チーム
石巻現地担当　　金崎　慶大

初めまして、５月より石巻現地職員に着任しました金崎と申します。この場をかりて自己紹介、これからの意気込みを述べたいと思います。

私は、香川県（うどん県と言った方が知名度はあるのでしょうか？）で生まれ、高校卒業まで育ちました。その後、岡山県の大学を卒業し、約２年間を倉敷市にあります総合病院の回復期病棟で相談員として勤務、直近まで広島県にて HIV 専門のソーシャルワーカーとして働いていました。

患者さんの自宅訪問や同行支援は、今までの職場でも経験してきましたが、地域の中の資源として関わる立場は初めてになります。経験も浅く、医療機関でしか働いたことの無い（恥ずかしながら東北にも訪れたことがありませんでした）私にとって東北、石巻に来るということは大きな決断だったと、実は、現地に来てからじわじわと感じています。震災から５年を経過した“今”この土地で何ができるのか、何が起こっているのか、漠然とした感じであったものが、まだまだぼんやりではありますが、少しずつ見えてくるような気がしています。

このままはっきりと見えなかったらどうしようと不安があるのも本音ですが、ここは、自前の根拠のない自信で振り払いたいと思います。また、文化の違いや土地柄、言葉に驚き、感激することも日々あり、ここの地域のつながりや歴史をもっと知りたいとも思っています。

現地の業務のほとんどが訪問や外部機関に出向くことで一日を終えることが多いです。病院の中だけでは見えないもの、聞こえない声がここでは具体的に見聞きできるのではないかと感じています。実際に声を出したくても出せない人や出し方が分からない人、自身で抱え込んでいる人など、声なき声が地域には多く存在しており、日々の関わりの中で目にすることも少なくありません。単に、見聞きするだけではなく、多くのものを吸収し、還元できるよう積極的な姿勢でいたいと思います。そして、この土地に寄り添いながら少しでも多くの方達と「香川から来たワーカーも悪くないな」と思って頂けるような関係性を築いていけたらと思います。

災害支援チーム
石巻現地担当　　菊田　駿

５月より、石巻災害支援チームの一員として着任させて頂いていました。遅ればせながら、この場を借りてご挨拶させて頂きます。埼玉県ふじみ野市にある文京学院大学を卒業後、千葉県八千代市にある療養型病棟と一般病棟を併設した勝田台病院に２年間勤めていました。

石巻災害支援チームで仕事をしたいと思ったきっかけが２つあります。

１つ目は、東日本大震災の起こった時、私は大学１年でした。テレビの向こう側に流れる津波の映像をどこか他人ごとに見ていた自分がいました。文京学院大学での４年間そして勝田台病院での２年間。併せて６年間もの間になぜ現地に行き被災地の皆さんのために出来ることをしなかったのか。悔しい気持ちでいっぱいになりました。しかも自分が住む千葉県にも津波の被害があったにも関わらず。６年目を迎える年にはなりましたが、今だからこそ出来ることがあるのではないかと思い希望しました。

２つ目は勝田台病院に入院されていたある患者さんとの出会いでした。その患者さんはたった１人のご家族をとっても大切にしており必要ともしていました。しかし、ご家族の方からはそれに応える様子を見る事ができず、“家族”というものを深く考えることとなり、MSW として関われる範囲にも限界を感じ、悶々とした思いを抱えていました。そのような時、石巻市での活動を知り人に寄り添い共に歩む姿勢にとても感銘を受けました。

まだ経験も浅く自分に何が出来るか今でも不安ですが、石巻市の皆さまのために少しでも力になれるように毎日の業務を務めて参りたいと思っております。しかし、初めての一人暮らしであること、冬が苦手なことがあり生活面での不安もあります。

この１か月、これまでバトンを繋いできてくださった先輩方が石巻市から信頼を得てきたことを身に染みて感じている毎日です。それは、各他機関の方々から日本医療社会福祉協会に聞けばなんとかなるのではないか、アドバイスが聞きたい、という思いが感じられるからです。そのバトンをしっかりと受け取り、現地の先輩方と共にゴールに向けて進んで行きたいと思います。

石巻現地
メンバー

事務所
の様子

石巻現地メンバーです。

左から、畑中さん、金崎さん、福井さん、

菊田さん、岡村さんです。

よろしくお願いします。

2. 熊本地震被災地益城町の災害支援活動に参加して

期間　2016 年 5 月 11 日　～　5 月 31 日

災害支援チーム
石巻現地副責任者　　畑中　良子

４月 14 日に前震、４月 16 日に本震があった熊本地震から２ヶ月が経ちました。震度７という大きな地震で多くの方々が被災者となり、多くの家屋等が倒壊しました。

この地震で亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。

【　活動実施の経過　】　（日本医療社会福祉協会　HP 災害支援活動より抜粋）

平成２８年４月１４日（木）午後９:２６頃、熊本県熊本地方を震源とする、最大震度７の地震が発生いたしました。ここに、お亡くなりになった方々のご冥福をお祈り申し

上げるとともに、被災され現在も避難生活を余儀なくされている皆様に心よりお見舞い申し上げます。

当協会では発災の翌日の4月１５日（金）に平成２８年熊本地震の被災者支援活動を目的とした募金を呼びかけるとともに、4月１６日（土）に災害対策委員会を開催し、災害対策本部を設置いたしました。

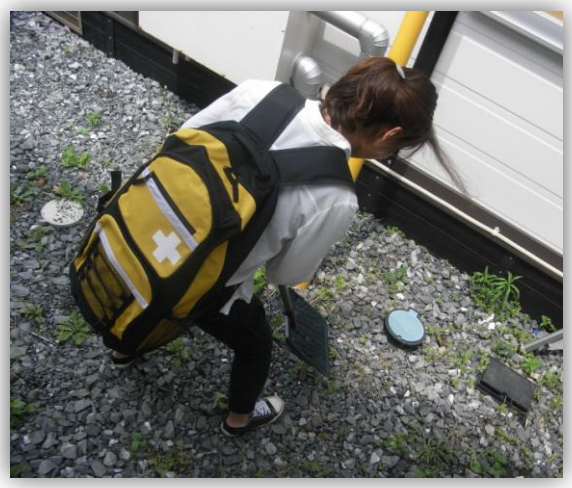
４月１７日（日）から２０日（水）の間、２名の協会役員等を熊本へ派遣し、その活動報告をもとに、４月２４日（日）第１回、５月１０日（火）第２回の災 害支本部会議を開催し、５月１２日（木）、「熊本ＹＭＣＡ」発「被災した要介護高齢者等に対する支援へのご協力について（依頼）」に基づき、「平成２８年熊本地震」に関する災害支援活動を現地で実施することに決定いたしました。

私は今年で石巻市での活動が 4 年目を迎えました。今回の熊本地震を受け、当協会の災害支援チームとして何か出来る事はないか？と笹岡統括に相談をし、５月 11 日～5 月 31 日の 3 週間、熊本県益城町にある総合体育館で支援活動を行いました。しかし、東日本大震災の発災後は急性期に支援に入っていたわけではないので、自分に何が出来るのか？と不安はありました。

総合体育館内には 500～700 名ぐらいの住民が避難されており、敷地内の別の建物やテント村（5 月 31 日で解消）、車中泊の方を含めると 1,000 名以上の方が避難されていました。現地を訪れた時は、その人数に圧倒されました。総合体育館は避難所になる前は YMCA が運営管理をされていたので、指定避難所になってからも実質の運営をされていました。全国の YMCA よりボランティアを始め、たくさんの支援者が入っていて、現場はごった返した状況でした。

前任者より、何をやってきたか？の申し送りを受けましたが、日々の状況は刻一刻と変化し、その時に必要な事をやるしかない、と思い、派遣前の不安はなくなりました。

具体的には総合体育館内で活動する支援者間（自治体派遣の保健師、救護班、心のケアチームなど）での情報共有シートの作成、連絡調整、総合体育館に来られる医療・福祉団体の受け入れ、課題を抱えた方の個別支援、受診調整・同行、福祉サービスの調整や一般避難所では避難生活の継続が難しい方への転居調整、仮設への申込支援などを行っておりました。



畑中さん！災害リュックを背負う！

私の現地での支援活動の任期は 5 月末までであり、その後は熊本県医療ソーシャルワーカー協会を中心に九州協議会へ引き継ぐ事となっていました。土日を中心に熊本や佐賀、大分の各県協会の会長及び会員の方々が現地視察や１日の支援活動に来られました。

避難所でのソーシャルワークをイメージできないとか、何をどのようにすれば良いのかが掴めないとか不安を持っておられました。しかし、一緒に活動する中で、感覚を掴んでもらい、６月からの活動を引き継いでもらえた事は嬉しかったです。また、土地勘や方言が分からない私にとっては、地元の方と活動ができたことで、社会資源を紹介してもらったり、話している内容を教えてもらえたりしたので、非常に心強かったです。今後の被災地支援でも外部支援者と地元支援者が協働して行える形が良いのではないか？と感じました。

震災後の石巻を見ているからこそ気付く事もありましたが、被害状況やその後の支援を比べるものではありません。それぞれの災害で支援の必要性は変わります。

６月に入り、仮設住宅の建設が進んでおります。益城町でも仮設住宅への転居が始まっています。これから生活支援に移っていく中で住民さんの不安や不満、課題が出来てくるだろうと予想されます。そこでソーシャルワーカーがこの先の生活を一緒に考えていく活動が大切になってくるだろうと思います。

最後に ３ 週間、熊本への派遣されてくれた石巻現地スタッフの皆様、災害支援チームの皆様、そして石巻市に感謝致します。ありがとうございました。

３．活動報告

石巻ロイヤル病院（宮城県）
春山　瑞生
活動期間：2016 年 6/15

今回の男あそぼう会では、以前からメンバーさんの希望であった「カラオケ」をすることとなりました。開始してまもなく歌う人や聴きたい人、表情が硬くなってしまう人等々に分かれてしまいました。私は「どうしようかなぁ…」と思い歌っては見たものの、私はメンバーさんの年代の歌を知らないため、何とも歯がゆく私の歌は終わりました。

現地員の方や協力員の方がピンクレディーや加山雄三を歌われてメンバーさんが盛り上がるのを見て、グループで共有できるものを提案・提供することの大事さを学びました。また、聴く側に徹

したメンバーさんが自宅に帰る途中懐かしくて涙を流したエピソードを聞いて、改めて音楽はすごいなぁと思うと同時に、それぞれの楽しみ方でいいと気づかされる活動でした。

　関わりを続ける中で個々の生活課題も協力員ながら少しずつ見えてくるようになりました。通院が必要だが移動費が出せずあきらめてしまう方、関わりがあるグループや人が少なく閉じこもってしまう方等々。

それぞれ方の悩み・不安・問題に耳を傾けその人らしい生活を一緒にイメージして、必要なもの・人を検討し繋げることが私たちソーシャルワーカーの活動です。この活動を通してメンバーさんの生活課題を考える際に、日ごろの業務を振り返ることも多々あります。

協力員としてメンバーさんの方々と関わる事で被災地の方々の生活を考えたり、日ごろの自分の業務を振り返ることができます。皆さんもご一緒に、この素敵な活動に協力されてみてはいかがでしょうか。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

4．災害支援チームからのお知らせ

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

【1．協力員募集】

現　　地

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
☆　　引き続き以下の内容にて募集いたしますので、ご協力下さい。　☆
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

現在、１日にあたり上限２から３名で募集しております。

現地までの旅費・交通費は自己負担をお願い致します。

活動日程つきましては下記のようにお願い致します。

期　間：　平日３日以上　、

受入日：　期間を満たす曜日　　**（土、日、祝日は活動致しません。）**

但し、上記以外であれば支援活動が可能な場合は現地担当までご相談ください。

※　出発２日前までには（到着時刻等を含めて）は必ず現地担当にご連絡ください。

今後、活動に参加される方でその年度初回参加時には、簡単な資料を郵送致します。
ホームページに活動カレンダーを掲載しておりますのでご覧下さい。

事　務　所

引き続き募集しております。
平日のみの活動ですが１～２ヶ月に１回でも構いません。
ご協力お願い致します。

【２．災害支援チーム会議開催のお知らせ】

次回会議日程

７月 12 日（火）　19：00～21：00　　於協会会議室

【３．書籍販売】

『東日本大震災　医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』、
『東日本大震災　医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』、
『東日本大震災　医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』の
販売を行っています！

発災から 2011 年９月３０日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011 年 10 月から 2012 年１２月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅡ』に、2013 年１月から 2014 年３月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせて頂きます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

（注文用紙はホームページからダウンロードできます）

バトンⅠ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

バトンⅡ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47

バトンⅢ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54

【4. facebook】

facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いいたします。

URL
http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970

【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。

URL
http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be

5. 災害支援ニュース発行のお知らせ

次回発行予定　７月下旬予定

6. あとがき

災害支援チーム事務局から

編集担当　冨永

熊本震災から、“もう”なのか“やっと”なのか 2 か月が過ぎました。私は被災地支援として、所属法人から熊本県益城町にある体育館避難所へ第２陣としていきました。どの災害でも、要援護者のサポートを直ちに優しく、他職種チームアプローチを形成することの重要性を痛感しました。今回の震災も、東日本大震災も「土地を知るもの」が地域を復興してくことだと思います。それには、様々な知識をもった伴走者がいて、一緒に考え導いていくことが必要だと改めて学びました。当協会は、石巻での伴奏は続きます。ずっとではありません・・・でも、この活動が地域の中に「MSW が必要だ」ということを実証されてきていることにうれしく思います。

金崎さん、菊田さん！応援しています。

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 28 年 7 月 8 日第 6 巻（第 3 号）
作成　日本医療社会福祉協会
災害支援チーム事務局